【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和7年7月11日(2025.7.11)

【国際公開番号】WO2024/095686
【出願番号】特願2024-554336(P2024-554336)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｍ　4/131(2010.01)
Ｈ０１Ｍ　4/36(2006.01)
Ｈ０１Ｍ　4/525(2010.01)
Ｈ０１Ｍ　4/505(2010.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｍ　4/131
Ｈ０１Ｍ　4/36　　Ｄ
Ｈ０１Ｍ　4/525
Ｈ０１Ｍ　4/505

【手続補正書】
【提出日】令和7年4月14日(2025.4.14)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
リチウム金属複合酸化物がＣｏを含有する場合、Ｃｏの含有率は、Ｌｉを除く金属元素の総モル数に対して１モル％以上２５モル％以下が好ましく、２モル％以上７モル％以下がより好ましい。この場合、材料コストを抑えながら、高容量と高耐久を両立できる。リチウム金属複合酸化物がＭｎを含有する場合、Ｍｎの含有率は、例えば、Ｌｉを除く金属元素の総モル数に対して２０モル％以下である。この場合、高容量と高耐久を両立し易くなる。リチウム金属複合酸化物がＡｌを含有する場合、Ａｌの含有率は、例えば、Ｌｉを除く金属元素の総モル数に対して０．１モル％以上７モル％以下である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６１】
［負極］
図１に示すように、負極１２は、負極芯体４０と、負極芯体４０上に配置された負極合剤層４１とを有する。負極芯体４０には、銅、銅合金、ステンレス鋼、ニッケル、ニッケル合金などの負極１２の電位範囲で安定な金属の箔、当該金属を表面に配置したフィルム等を用いることができる。負極合剤層４１は、負極活物質および結着剤を含み、負極リード２１が接続される部分を除く負極芯体４０の両面に設けられることが好ましい。負極芯体４０と負極合剤層４１の間、又は負極合剤層４１上には、無機物粒子および結着剤を含む保護層が配置されていてもよい。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６８
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００６８】
セパレータ１３と正極１１および負極１２の少なくとも一方との界面には、無機物フィラーを含むフィラー層が配置されていてもよい。無機物フィラーとしては、例えば、Ｔｉ、Ａｌ、Ｓｉ、Ｍｇ等の金属元素を含有する酸化物、リン酸化合物などが挙げられる。フィラー層は、当該フィラーを含有するスラリーを正極１１、負極１２、又はセパレータ１３の表面に塗布して形成することができる。また、セパレータ１３の表面には、アラミド樹脂等の耐熱性の高い樹脂層（耐熱層）が配置されていてもよい。セパレータ１３は、例えば、多孔性シートからなる基材と、基材上に配置されたフィラー層又は耐熱層とを有していてもよい。